

# 管内の概況

## 位置・気候

稚内開発建設部が管轄する宗谷地域は、北海道の北部に位置し、北海道本島最北端の地である宗谷岬は45° 31' 22"に位置しています。東はオホーツク海、西は利尻・礼文の離島を望む日本海に面しており、北は宗谷海峡を隔てた約43km先にサハリン(旧樺太)の島影を望むことができます。

気候は、日本海、オホーツク海に面する海洋性の気候と、山岳地帯及び河川流域の内陸性の気候に大別することができます。冬は、日本海側では対馬海流の影響もあり氷点下10度以下になることが少なく比較的温暖ですが、風が強いのが特徴です。オホーツク海側では流氷などの影響もあり寒暖の差が大きくなっています。また、夏は海岸地帯より内陸部で気温の高い日が多く、冬の内陸部は寒冷で、降水量、積雪量も多くなっています。



利尻山

## 面積・人口

宗谷地域の総面積は、4,625.68km<sup>2</sup>で、北海道の総面積の約5.5%を占め、ほぼ京都市(4,612.09km<sup>2</sup>)と同じ広さを有しています。管内の人口は、55,110人(令和7年12月31日現在)で、全道総人口の約1.1%となっています。

## 観光

宗谷の観光資源は、希少な動植物の拠り所となる「利尻礼文サロベツ国立公園」、「北オホーツク道立自然公園」を中心に、フォトジェニックな「白い道」やダイナミックな周氷河地形を擁する「宗谷丘陵」、日本のてっぺん「宗谷岬」、泉質の類い稀なる「豊富温泉」、モダンな美しさと歴史的価値を兼ね備えながら越波防止のために現在も活躍し続ける「稚内港北防波堤ドーム」など多様です。

これらの豊かな景観や自然環境に適応する形で地域の魅力を味わう方法として、自転車を活用した観光施策が広がりを見せています。

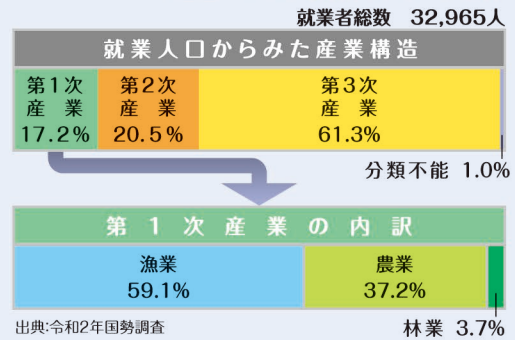


宗谷岬

## 産業

管内の主要産業は、道内有数の酪農地帯となっている「農業」、沿岸漁業を中心に展開される「水産業」が大きな柱となっています。「農業」では多くの生乳がバターや脱脂粉乳などに加工され、一部は牛乳として全道のコンビニエンスストアなどに出荷されています。「水産業」ではホタテがアジアやアメリカ、EU向けに輸出されるなど、世界に誇るブランドに成長しています。

一方、宗谷地域は全国でも有数の風力発電の適地であり、風力発電施設の建設や送電網の整備など、豊富な再生可能エネルギーを活用するための取組が進められています。



## 農業

管内の農業は、昭和31年に集約酪農地域の指定を受けて以来、酪農専業に転換を図り、昭和40年代以降は国営農地開発事業等によって生産基盤の拡大を推進し、広大な牧草地を活かした乳牛の多頭飼育による大規模酪農専業地域として発展しています。

離島を除く管内の農業経営体数は679経営体、耕地面積は6万2千haで、経営体当たりの面積は91haと全道平均の約2.8倍に当たる規模となっています。

また、乳用牛飼養頭数は6万4千頭、経営体当たりの飼養頭数は112頭、生乳生産量は29万2千tで、乳用牛飼養頭数及び生乳生産量は全道の約7～8%を占めています。

管内の酪農は、豊富な土地資源を活かし、生産基盤の整備、TMRセンター(※1)やコントラクター(※2)の活用による自給飼料の確保、家畜ふん尿の適正還元、農作業の効率化等を図りながら、安全・安心で美味しい生乳等の生産に努めています。

宗谷農業の概要				
種別	区分	稚内開発建設部管内(離島を除く)	全道	全道対比
農業経営体数 ① (※3)		679	34,913	1.9%
耕地面積 (ha)	総数 ②	62,000	1,138,000	5.4%
	経営体当たり ③ (②/①)	91	33	275.8%
乳用牛 (頭)	飼養経営体数 ④	569	5,543	10.3%
	飼養頭数 ⑤	63,652	810,699	7.9%
	経営体当たり ⑥ (⑤/④)	112	146	76.7%
生乳生産量 (t)		292,457	4,233,050	6.9%



牧草の収穫作業

出典：農業経営体数・乳用牛飼養経営体数・飼養頭数：2020年農林業センサス  
耕地面積：2024年農林水産省 作物統計調査  
生乳生産量：2024年農協間き取り、全道は農林水産省 2024年牛乳乳製品統計

※1：TMRセンターは、粗飼料と濃厚飼料を混合した飼料 (Total Mixed Ration) を調整する拠点施設  
※2：コントラクターは、粗飼料の収穫作業、ふん尿等散布作業を請け負う組織  
※3：農業経営体数は、農産物の生産活動を行う農家及び法人数

## 水産業

宗谷管内の水産業は、日本海及びオホーツク海に面する恵まれた立地条件や武蔵堆などの優良な漁場を背景に、ホタテガイ、ホッケ、サケ・マス、コンブ、ウニ、ナマコなどの沖合・沿岸漁業が営まれています。宗谷管内の漁業生産量・生産高は全道の約2割を占めており、管内の基幹産業として、水産加工業など関連産業の発展に寄与しています。

令和6年の漁業生産量は15万9千t、生産高は477億円と、令和5年と比べ生産量は約6%の減少、生産高は約4%の減少となりました。

主な魚種の生産は、ホタテガイが12万t(237億円)、サケ・マスが4千t(40億5千万円)、ナマコが7百t(26億9千万円)、タコが3千t(25億4千万円)となっています。